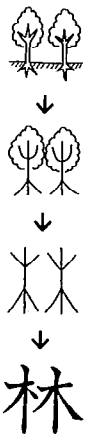


# 林

二年  
 画数 8  
 筆順 木 林  
 クシ オン リン  
 はやし



成の立ち

「木」という字をふたつならべて、「木がたくさんならんでいる」「はやし」をあらわした字です。

「ひとやものが『林』のようにたくさんあつまっているところ」をあらわすことばとしてつかうことがあります。たとえば、「書物(本)がたくさんあるところ」を『書林』といいます。また、「ことば(辞)をたくさんあつめてせつめいしたほん」を『辞林』というのもこのれいです。

### 使い方

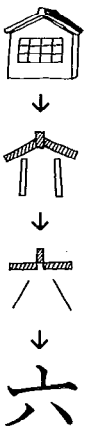
- ▽うら山に『くり林』があつて、あきになると、よくくりひろいにいきました。
- ▽なつは『林間がっこう』があつて、まいとし、なつやすみがたのしみです。

### 熟語例

- ▽林間(『林の間』といういみのことばで、『林の中』のことです。)
- ▽林立(『林のように立っている』といういみのことばで、『ものがびっしりとならんでいる』ことです。)
- ▽林道(林の中につくった道。ざい木をはこぶためにつくった道です。)
- ▽植林(山などに木を植えて、林をそだてること。)
- ▽密林(『密』は『すきまがない』こと。すきまもないほどにしげった林のこと。で、ねつたいちほうに見られるものです。『ジャングル』といわれています。)
- ▽防風林(風をつよくふくちほうで、風を防ぐために植えられた林のこと。)
- ▽防砂林(風にとばされる砂を防ぐために植えられた林のこと。)

# 六

二年  
 画数 4  
 筆順 一 六  
 クシ オン ロク  
 む・むりつ・むっりつ・むい



成の立ち

「いえ」のかたちをあらわした字ですが、「いえ」と、すう字の「ろく」とおなじ音だったので、「すう字」の「ろく」のいみにつかわれるようになりました。

「やね」のぶぶんは「三つのぼう」のあつまりとみることができますし、「ハ」は「分ける」いみのしるしですから、「三つを二つに分けて六つになる」とかんがえることもできます。

### 使い方

- ▽むかし、ながさのたんに『尺』があり、『六尺』を一間(約一・八メートル)といいました。たたみのながさがこれです。

### 熟語例

- ▽六法(憲法、刑法、民法など六つの法律のこと。)
- ▽六根(目、はな、耳、した、からだ、こころ)
- ▽六道(地獄道、ガキ道、畜生道、シユラ道、人間道、天上の六つの世界)
- ▽六十余州(日本ぜんこく。むかし、六十余のくにだったので。)